

# 活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

みんなで作る地域包括ケアシステム  
～在宅医療・介護連携推進に向けた多職種取り組み～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

高萩市地域包括支援センター

代表者：鈴木 真希

勤務先：高萩市役所

所 属：健康福祉部 高齢福祉課 地域包括支援グループ

所在地：〒318-8511

茨城県高萩市春日町3-10

TEL：0293-22-0080

FAX：0293-22-0700



ケア会議（多職種と住民メンバーを含む）の様子です。

## ◇活動方針

高萩市においては、平成27年7月1日時点の高齢化率は30.8%となっており、国・茨城県（26.5%）より高く推移している状況である。高齢者の増加に伴い、独居高齢者の増加や認知症、骨折、脳血管疾患、がん等による介護保険申請が増加している一方、地域で高齢者を支えるサービスはまだ少ない状況である。団塊の世代が75歳以上となる平成37年を見据え、高萩市の実情にあった多職種協働の「地域包括ケアシステム」の構築を目指すため、地域包括支援センター職員からの呼びかけで平成24年3月から多職種有志で集まりを始めた。専門職の研修会を開催したい等前向きな意見が出され、また多賀医師会からの後押しもあり平成25年度から在宅医療・介護連携拠点事業を本格的に開始した。

## ◇活動内容とその成果

**事務局：地域包括支援センター（今年度から在宅医療介護連携参事官が配置）**

下記の多職種メンバーと推進している。

医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、訪問看護師、病棟看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ホームヘルパー、社会福祉士、保健師、社会福祉協議会職員、庁内関係課職員（社会福祉課、健康づくり課職員）

多職種協働でネットワークを強化、在宅療養を支える「土台」、地域資源を最大限に効率的・効果的に活用する「仕組み」を構築している。

# 活動成果報告書

## 1. 土台づくり（多職種協働によるネットワークづくり）

### （活動内容）

#### 1) 顔の見える関係を作るための多職種会議

約 30 名の多職種が 2 か月に 1 回集まり、地域の課題や社会資源について意見交換会を実施。課題解決に向け、5 つのワーキンググループ（研修企画グループ・市民向けガイドグループ・クラウド検証グループ・市民普及啓発グループ・高萩版介護医療連携関連書式作成グループ）で以下の事業の検討を重ねている。

#### 2) 地域課題を把握するための実態調査（平成 25 年度に調査）

多職種や住民の介護・医療に対する意識や課題を抽出するため、「医療・介護従事者」「患者・家族」両視点からの実態調査を実施。

#### 3) 専門職に対する資質向上のための研修会・勉強会・実地研修

①定期研修会（2 か月に 1 回 多職種 40～50 名が参加）

②多職種連携研修会（年に 1 回、市内介護医療関係者 53 名参加）

③実地研修（5 回 13 名参加）

お互いの仕事内容を理解し、よりスムーズな連携体制をとれるよう病院・施設見学や訪問診療や訪問看護等の同行訪問を実施。

#### 4) 地域課題の共有を図るための高萩版テキスト作成

国や県の動きや地域の実情についての共通理解を図るため、「高萩版テキスト」を独自に作成し、多職種研修会等で活用している。

#### 5) 市民の在宅医療・介護の理解を深めるための講演会や出前講座等の実施

①住民が主役の講演会（236 名が参加）

住民自身も今後の在宅医療や介護について理解を深め意識が向上できるよう、住民を巻き込んだイベントを実施した。専門的立場の講師の講演会、多職種・住民自らが演者となった「寸劇（やっぱり自宅が一番！みんなで作る地域包括ケアシステム）」等を実施した。



②地区に向いての出前講座

住民自身の意識が向上し、主体的な活動をすすめるきっかけづくりを行った。地区以内で地域の課題の共有を図るため、包括支援センター職員や多職種メンバーで支部社協や自治会に出向き「高齢者の実態や今後の在宅医療・介護について」の説明を行いながら、住民と活発な意見交換を行った。

### （成果）

多職種会議は事業を開始してから今までに 18 回開催しており、医師をはじめ多職種それぞれの立場で活発な意見を交わしている。そのため、顔の見える関係が出来上がり普通の業務の中での連携も円滑になった。また、回を重ねるごとに多職種メンバーが事業に対して主体的に取り組むようになり、自分たちだけの活動にとどまらず、地域・住民に発信していく活動も積極的に実施している。住民より「地域包括ケアシステムについてもっと勉強し、自分たちで何とかしていきたい。」などの声が聞かれるようになり住民自身の意識

# 活動成果報告書

も向上してきている。

## 2. 仕組みづくり（課題解決に向けた検証）

（活動内容）

### 1) 医療・介護資源の情報共有のためのガイド作成

現場で活用できる多職種連携ガイド「医療編」・「介護編」を作成。現在「市民向け」ガイドを作成中。

### 2) 地域包括ケアの仕組みづくり

#### ゴミだし支援等の社会資源の開発・検証

（地域ケア会議と連携）

地域課題把握のための平成25年度の実態調査の結果（自宅で受けたいサービスに「ごみ出しサービス」が挙がる）を踏まえ、高齢者の生活を支えるサービスについて住民メンバーを含めた地域ケア会議で検討を重ね、平成28年度事業開始に向け準備中。

### 3) 在宅支援情報共有ツール（クラウド）

の検証

先駆的に取り組んでいる柏市・笠間市を視察した。地域課題把握のための平成25年度の実態調査の結果等（情報を共有するためのシステムが必要、医療機関の敷居が高く連携が取りづらいとの意見多数）や医師会長の意向を踏まえ、在宅高齢者とその家族に関わる多職種で一貫した対応をとることで安心して支援を受けることができるよう、事例を通してクラウドツール活用の検証を実施。課題を抽出し、事業化していく予定。

### 4) 医療・介護関連統一書式の作成

入退院時や介護サービス利用時等にスムーズな支援を受けるための統一関連書式を作成中。

（成果）

多職種での意見交換や実態調査等で抽出された課題を解決すべく、ワーキンググループや地域ケア会議でも度も検討し検証を行い、高萩の実情にあったサービスづくりができつつある。住民の声を十分に反映させたサービスを恒久的な仕組みとして位置付けられる（事業化・施策化）段階に来ている。

#### ◇今後の計画

地域包括ケアシステムの構築にあたっては、医療と介護の連携に加え、住民自身が主体的に取り組み地域で支え合う仕組みづくりが重要になってくる。また、在宅医療を推進するためには、要となる訪問診療や訪問看護の体制づくりをバックアップしていく必要もあるので、医師会との密な連携が不可欠であると思われる。

- ・住民の主体的な活動を促進するため啓発活動や意見交換会等を積極的に行う。（出前講座等）
- ・医師会と協議できる機会を設け情報共有を図る。

※特にPRしたいこと 講演会（平成27年3月14日）寸劇「やっぱり自宅が一番！～みんなで作る地域包括ケアシステム～」の内容は<https://www.youtube.com/watch?v=tfB9F9D7gzI>に掲載。ぜひ、ご覧ください。

## 地域包括ケアの仕組み作り

